

水産資源学 正誤表

箇所	誤	正
P16 L2 P108 L18-19 P134 L4 P164 右 L33	最大持続漁獲量	最大持続生産量
P18	(「海洋生物資源の保存及び管理に関する法律」について)	補注:「海洋生物資源の保存及び管理に関する法律」(TAC法)自体は2020年12月に廃止されており、該当する内容は改正された漁業法(2020年12月施行)に引き継がれている。
P20 L17, 脚注	タイセイヨウダラ	タイセイヨウマダラ
P21 L11	1980年代に最大で100万トンもの漁獲があったことがわかる。	1890年代に70万トンを超える漁獲があったことがわかる。
P27 L23	migration root	migration route
P38 L3	漁獲前の資源の体長組成が完璧に把握できたとしても、	漁具の選択性など標本抽出時の偏りを完全に排除できたとしても、
P38 L11	folk length	fork length
P54 L6	hokky-stick	hocky stick
P54 L6-7	(Clark, Charles, Beddington, Mangel, 1985)	(Clark et al., 1985)
P56 L24-26	AICで比較すると、他の成長曲線のほうが当てはまりが良い場合もあるが、VBGC以外の成長曲線を使用すると、その差がわずかであることも多く、他の研究と比較することが	AICで比較すると他の成長曲線のほうが当てはまりが良い場合もあるが、その差がわずかであることも多い。VBGC以外の成長曲線を使用すると、他の研究と比較することが
P57 L21	傾きが半分になっている。	原点付近の傾きが概ね半分になっている。
P66 L17	死亡の割合が高い場合には、母数が日々変わってしまうので、使いにくい。	年初に10万人いた人口が1年後には死亡により減ってしまうので、正確ではない。
P74 L23, 25	漁獲率	死亡率
P87 式(4.9)	$d_i = \frac{1}{n_i} \sum C_{ij}$	$d_i = \frac{1}{n_i} \sum d_{ij}$
P92 式(4.19)	$K_B = \frac{Y_B/X_B}{Y_A/X_A}, K_C = \frac{Y_C/X_C}{Y_A/X_A}$	$K_B = \frac{Y_B/E_B}{Y_A/E_A}, K_C = \frac{Y_C/E_C}{Y_A/E_A}$
P92 式(4.20)	$X_t = X_A + K_B X_B + K_C X_C$	$E_t = E_A + K_B E_B + K_C E_C$
P93 表 4.1	努力量 X_j 標準化された努力量 $K_j X_j$	努力量 E_j 標準化された努力量 $K_j E_j$
P93 L24	漁区 (図 4.9) ,	漁区 (図 4.9) ごとに、
P93 L25	水産庁国立研究	水産庁, 国立研究
P95 式(4.25)	$\bar{P} = \sum A_i \frac{Y_i}{X_i}$	$\bar{P} = \sum A_i \frac{Y_i}{E_i}$

P95 式(4.26)	$\tilde{X} = \frac{AY}{\tilde{P}}$	$\tilde{E} = \frac{AY}{\tilde{P}}$
P95 式(4.27)	$\varepsilon = \frac{\tilde{X}}{X}$	$\varepsilon = \frac{\tilde{E}}{E}$
P95 式(4.28)	$f = \frac{\tilde{X}}{A}$	$f = \frac{\tilde{E}}{A}$
P96 表 4.3	CPUE(t/回) X_i $u_i = Y_i/X_i$	CPUE(kg/回) E_i $u_i = Y_i/E_i$
P97 L1	傾きが q	傾きが $-q$
P97 L3	$N_0 = -b/a$	$N_0 = -a/b$
P99 式(4.34)の下	(追加)	ここで, $N_{a,y}$, $C_{a,y}$ は, y 年の a 歳の資源尾数, 漁獲量である。
P102 L3	式 (4.35) 同様	式 (4.36) 同様
P106 L19	Sullivan, Lai, Gallucci, 1990;	Sullivan et al., 1990;
P106 L24	Ueda and Matsuishi, 2004;	Ueda et al. 2004;
P132 L10	(第一種特定海洋生物資源) は表 6.1 にある	(第一種特定海洋生物資源) は, 2019 年時点で表 6.1 にある
P134	(TAE について)	補注: 2020 年 12 月施工の改正漁業法では廃止された。
P146 L23	それまでの累積漁獲量は Y である。	(削除)
P149 L12	t_0 だけが違う④が a 。	b を右に 0.5 平衡移動した a が④。
P157 L20	松石隆 (1997) の前	Matsui, N., Sasaki, M., Kobayashi, M., Shindo, J., Matsuishi, T. F. (2021) Growth and reproduction in the Western Pacific subspecies of the harbour porpoise (<i>Phocoena phocoena</i>) inhabiting Hokkaido, Japan. Aquatic Mammals, 47(2) 185-195. https://doi.org/10.1578/AM.47.2.2021.185
P159 L14	The weight-based virtual population analysis	Weight-based virtual population analysis
P159 L26	山田作太郎, 田中栄次(1999) 水産資源解析学. 東京: 成山堂書店.	(削除)
P161 左 L15	folk length	fork length
P161 左 L28	hockey-stick model	hockey stick model
P161 右 L27	migration root	migration route